特63
943

明治廿四年改正再刻

牛田權三郎 遺稿
鳴川猛之助 校正

温故知新活物窮理

商家秘携

校正 八木三猿金泉秘錄 全

天周秋作見積之圖一補附

攝津 志方登龍軒藏

特63
943

明治廿四年改正再刻

牛田權三郎遺稿
鳴川猛之助校正

温故知新活物窮理

商家秘携
校正

八木三猿金泉秘録 全

天周秋作見積之圖一補附

攝津
志方登龍軒藏

三猿金泉録序

太極動きて陽を生じ動くこと極りて靜なり靜に爲て陰を生す靜なること極りてまたうごく一動一靜あるに其根となる太極陰陽は天地萬物の始なり米の高下も天地陰陽の廻るがごとく強氣の功あらはれてはなはだ高くなり上る理極れは其中に弱氣の理を含む弱氣の功あらはれてはなはだ安くなれは其中に強氣の理を含む万人の氣弱き時は米上るべきの理なり諸人氣強き時ハ米下

なるべきの種なり是みな天性理外の理なり
予荘年の頃より米商に心を寄晝夜工夫を
めぐらし六十年來月日をれくりて漸々米
強弱の悟を開きて米商の定法をたて一巻
の秘書を作り號けて三猿金泉録といふ米
穀の形象は中まるく上下尖るまるは陽尖
りは陰なり天地陰陽の氣をうけ四民士農工商
をやしなふ天下第一の寳なり三猿とは見
猿聞猿言猿の三なり眼に強變を見て心に
強變の淵に沈むてとなかれ只心に可含賣

耳に弱變を開て心に弱變の淵に沈むてと
なかれ只心に可含買強變を見聞とも人よ
かたるてとなかれ言は人の心を迷はす是
三猿の秘密なり金泉録は此の書號なり
極意目[illegible]
三高安の理は空理にて眼にみゑずかげ[illegible]
[illegible]も形もなき物が躰[illegible]
上の句の心を考ふるに海をもて上るとも
いつさかるとも定らざるが空理なり空理
と見れは千年に一度もてり買きる時節は

なしまた下の句のこゝろを考ふるにかげも形も無物が躰とあり躰あれは定式あり定しきあれは賣買あり佛道の定式は五戒儒道の定式は五常神道の定式は智仁勇の三徳みなそれ〳〵に定式あり。たかやすの定式古米ねはく安き直段を新米へうつしたる歳はから腹上り有年なり是を順乗のとしといふ古米もくなくして高き直段を新米へうつしたる歳は空腹下りのあるとしなり六七八月に强變いづれはまさしく空

腹さがりの歳なり是を變乗の歳といふ賣買の定式は逆平順乗のふたつなり逆平にて平買にてこれを買順乗とは上る道理をたゞしく見つけ乗買に買を順乗といふなり。順乗變乗十二平商内家傳高安鑑三十八乗商内十五禁制萬歳運氣豊凶錄等てこれを考ふる時は千度に千度まけざる妙の術なり誠に家傳秘藏の寳なり秘もべし〳〵

慈雲齋　牛田權三郎

三猿金泉目録

順乗變乗十二平商内
家傳四季安鑑
三十八乗商内
十五禁言
順乗平乗商内
半扱安樂轉變の仕法
万歳運氣豐凶錄
大潮少汐の考
風吹かさるを考

入梅三十日
虹
八専
立雲
一部極意九躰歌
智仁勇
田地米の數
世の中三段年々秋作見積のこと
强氣五ツの秘傳
弱氣五ツの秘傳

七福即生秘密傳
度端極意の卷

校正三猿金泉秘録

●順乗變乗十二平商内（第一）

○古米で迎き有年の高安順順六句

秋やすから腹上り一割半霜月さがり暮上るなり

春すわり四五月上り水無月と文月の米下るものなり

○順乗大商内

秋は買から腹上りた賣轉變霜月轉變暮は安楽

春轉變四五月閏五月すゑはたの種まけ六七八の暮

○古米もなき凶年の高安變乗六句

秋たかく水から腹下り一割半霜月やすく暮もあがらず

凡例

一此書中に何月と記され皆舊暦の月と知るべし又た水無月は舊六月文月は舊七月名月明月と書るは舊八月のことなるべし

一地名の内本書には江戸と書きのせたれど今東京に改めたり是れ今の人に見安からん爲めに此くかき直したり

一金高本の書に何両〳〵とありしを當時のとなへ何圓と改めたり此等の事見る人察し玉へと云ふ

端雲軒登龍述

春よわき順氣の歳は五月さげ水無月文月上るものなり

○變乘六句商内

秋ハはたから腹下りに買半扱霜月安樂暮休むべし

春はまた四月にのせて五月そへ買の種まけ六七八のくれ

●家傳四季高安鑑（第二）

○順乘秋冬の高下を考ふる歌

古米おほく豐年と見る安米はから腹上りの年と知るべし

○變乘秋冬の高下を考ふる歌

古米すくなく強變が出て高米はから腹下りの年と知るべし

○順乘變乘春の高下の考へ歌

春あげと見て買上る冬の米はるはなか〳〵たかなるまじ

春さげと見て直の安き冬の米春はなか〳〵やすくなるまじ

春三月大高下なきそわり旬高き日わ賣やすき日わかへ

そわりにハ三平二乘半扱商内たかやすともに平乘禁制

そわりにハ賣轉變に買轉變德おにがもふ半扱安樂

○順乘變乘五月高下の考へ歌

順乘のとしはきわめて五月あげ五月もがるは變乘の年

大法が秋名月がやそ峠五月下旬がたかとふげなり

五月米人氣弱くて直ハ上る子々孫々まで賣は禁制

○順乘夏の高下ハ考ふる歌

年あけて春から五月高米は水無月五月きかる年なり

○變乘夏の高下を考ふる歌

年あけて春から五月安米は水無月五月あがる年なり

●三十八乘商内三十八首（第三）

順乘の年はから腹あがりなり秋名月に買のたねまけ

變乘の年はから腹さがりなり秋名月に賣のたねまけ

下鞘が上ざやになる鞘がわりから腹あがり德のりにかへ

上ざやがしたざやになる鞘がはりから腹さがり德のりにくれ

上ざやがしたざやなる盆の米米ならば五月をゑから賣だねをまけ

天性の利は水無月に出るとしれ高安ともに米にしたがへ

下るべき米盛からあがるなら德のある[illegible]德のりにかへ

五月下旬高くはゝたの種をまけ六七月は德のりうれ

五月下旬安くはかひの種をまけ六七月は德のりにかへ

米くずれ買落城の飛さげはたゞ眠ねふさぎ買の種蒔

米がれに賣落城の飛あげはたわけになりて賣の種まけ

洪水と大風ふきの飛上りはあほうになりてはたの種まけ

五月米人氣弱くて直は上る四月下旬にかひの種まけ

○強變表にあらはるゝ年は米下るべき種まけ

強變があらはれ出れば皆強氣了簡なしに賣の種まけ

○弱氣世にあらはるゝ年は米上るべき理なり

弱氣理世にあらはれ出れは皆弱氣何時にても買の種まけ
秋の米から腹上りまちうけて二割あからはうりのたねまけ
秋の米から腹下りまちうけて一割半から二割さげ買
秋やすく人氣も弱く我もまた賣たきときは米の買しもむ
秋たかく人氣も強く我もまた買たきときが米の賣しもむ
強變の出るとしばかり撰出して二百十日にかひの種まけ
○口傳曰萬歳運氣豊凶録を考へて強變あるとしは二百
十日に買の種をまけといふ歌の意なり
上かあし見ちかくいみもる米ならねとむと強氣れ止て賣べし
常弱氣損とくしらぬ大たはけ貧乏神の氏子なるらむ

桃灯と鐘と見ようりとかひ買徳れはし賣損れはし
將軍の金ずまりはいつまでも米に隨ひ賣の種まけ
將軍の買あげならいつにても米にむかうて買の種蒔
大法五月下旬が賣の旬　秋名月が買のしゆむなり
万人が心よまよふ米なれはつれなき道へれもむくがよし
四季ともに鞘がはりには氣をつけて高安ともに米に隨へ
買米を一度にかふれ無分別二度ま買べし二度に賣べし
賣買に徳の乘れる商内は半扱商内のそくひ場としれ
百年に九十九年のたかやすれ三割てゑぬ物としるべし
いつにても三割あげては九分一分千天元のうり旬としれ

いつまでも三割さけば米くずれは天元のかひ旬としれ
世の中の飲米日々に二万俵一箇月には六十万俵なり
京大阪堺ふし見の飲米は一箇月にハ八十五万俵 十五万俵なり
ふところに金れたやさぬ覚悟せよ金は米釣るゑばと知るべし
文珠でも供へのたゝぬ商内は高下の變が出れはやぶるゝ
賣買はいくつの供へも同じこと米あきなひの軍兵はかね

●十五禁言　十五首　（第四）

供へなき商内ならばいつにても損徳なしに商内禁制
大法が秋冬五月はた禁制春六七月かひは禁せい
豊年は万人氣弱く我まわし夜盗にまつてうりは禁制

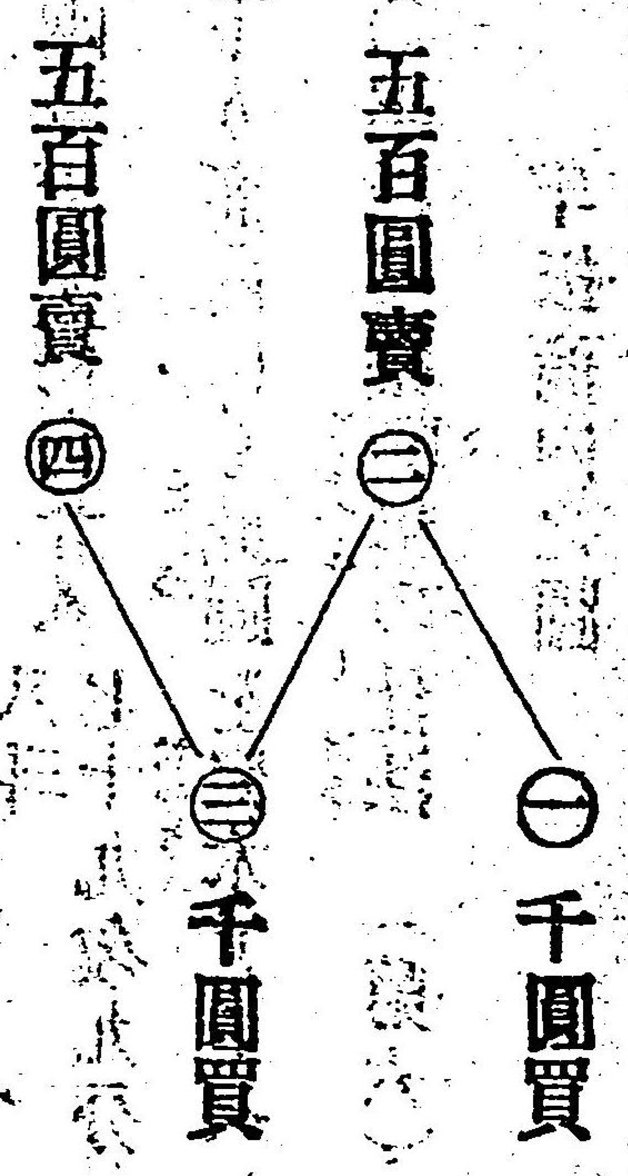
凶年は千人氣強く我強し高きによつて買は禁制
弱氣理世に現れ出れば皆弱氣安きに依て端は禁せい
强變が現れ出れば皆强氣高きによつてかひは禁せい
あがりあし見ぢかく見ゆる米ならば氣は强く共買は禁せい
さげて理とたゞしく思ふ米にても四五月頃のたは禁せい
五月米人氣弱くて直は上る予々孫々まで賣は禁せい
さげて理と手にとるやうに思ども秋穂のうへのうりは禁せい
天性の理は水無月に出るとしれ米に隨ひ平乗きんせい
洪水と大風ふきの飛あがりはいつのとしでも買はきんせい
米くづれ買落城のとびさげは氣はよわくとも端はきんせい

米がれにはた落城の飛あげは氣はつよくともかひはきんせい
居りには三平二乘半扱商内高安とともに平乘きんせい
○順逆平乘商内（第五）
大黒天神秋名月商内　弁二百十日商内
買楕三平二乘半扱安樂商内
口傳曰　秋名月の商内には此圖を定木として賣買をべし合せて
八百圓買損米七十俵代金れよろ三十圓敷金四十圓あはせて七
十圓なり
◎四百圓買　三平　廿三俵　荏土九斗四升
大阪六拾九匁五分
同　八斗八升
二百圓買　二平　廿二俵　同　七拾二匁七分　一乘四百圓買

百圓買　一平　廿一俵　同　八斗四升
同　七拾六匁二分　二乘四百圓買
●百圓買　天元商内卅俵　八斗
七拾九匁九分
十九俵　荏土七斗六升
大阪八十四匁一分　半扱八百圓買
十八俵　同　七斗二升
同　八拾八匁八分　安樂商内八百圓賣
廿三俵　荏土九斗四升
大阪六拾九匁五分　あきなひ高は金八百圓半扱德米三百
廿俵なり十八俵　荏土七斗六升
大阪八拾八匁八分　安樂商内安米二百八拾俵〆
六百俵損米七拾俵　引　德米五百三拾俵十八俵　七斗六升
八十八匁八分にて
轉糶それば八百圓賣になる二百十日まへも此圖を定木として
商内をべし
家傳五月下旬商内

賣楯三平十乘安樂商内
六百圓安樂商内德米百六拾俵内　三拾俵損米引　殘て百三拾俵
德
廿一賣八斗四升
七拾六匁一分　安樂商内六百圓
●百圓賣　天元商内廿俵八斗
七拾九匁九分
百圓賣一平十九俵七斗六升
八十四匁一分　一乘二百圓賣
○二百圓賣二平十八俵七斗二升
八十八匁八分
合せて四百圓賣損米三拾俵代金およそ拾五圓敷金貳十圓水無
月下り商内に此圖を定木とすべし
西宮惠日須太神宮五月下旬商内

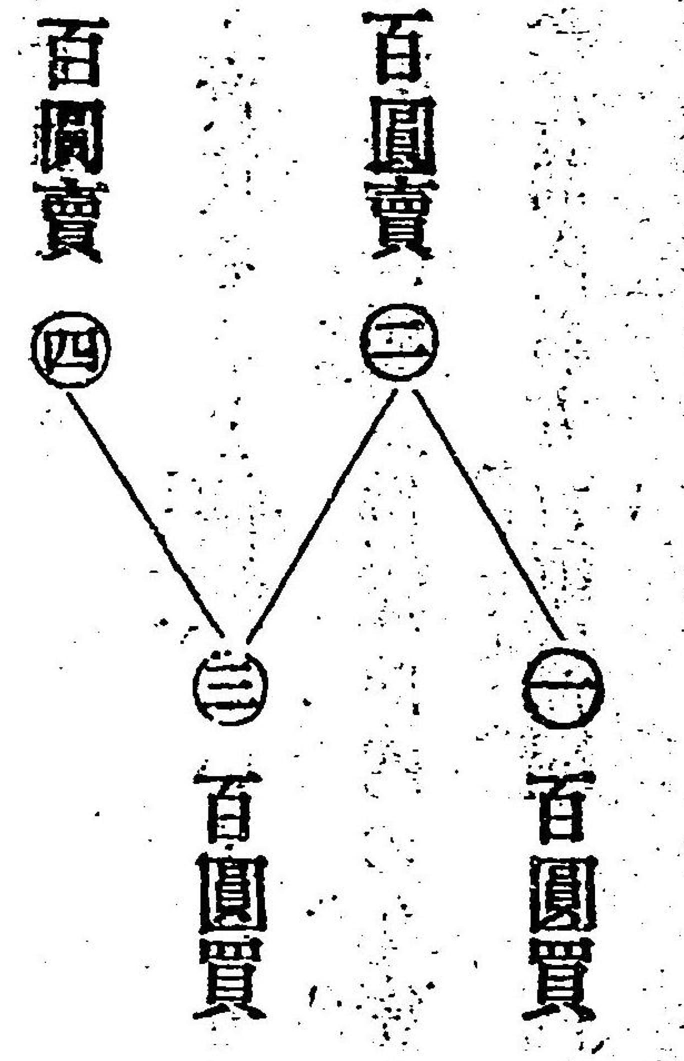
賣楯順德三乘轉變商内
安樂商内　四百圓賣
○廿三俵九斗四升
六十九匁五分　轉變八百圓買の内四百圓買次德米
二百圓賣二乘廿二俵八斗八升
七十二匁七分　殘り四百圓買持
安樂商内四百圓賣次
德米四十俵〆百十俵
百圓賣三乘廿一俵八斗四升
七十六匁一分
●百兩賣天元商内廿八八斗
七十九匁九分
水無月下り商内にも此圖を定木とすべし
○半扱安樂轉變の仕法　（第六）
半扱商内之圖　㈠　千圓買



安き日千圓買五分か一割飛あがりたる日はんぶん仕舞是半扱なりまた五分か一割さがるとき五百圓買たも此商内の仕方を買楯半扱商内といふなり買楯半扱商内も右同意なり高下に利徳あり米の本躰をうしなはずして天下一のめづらしき徳あきなひとしるべきなり

高安に氣のやもちがな半扱商寐ても起ても徳とれるなり

安樂商内之圖

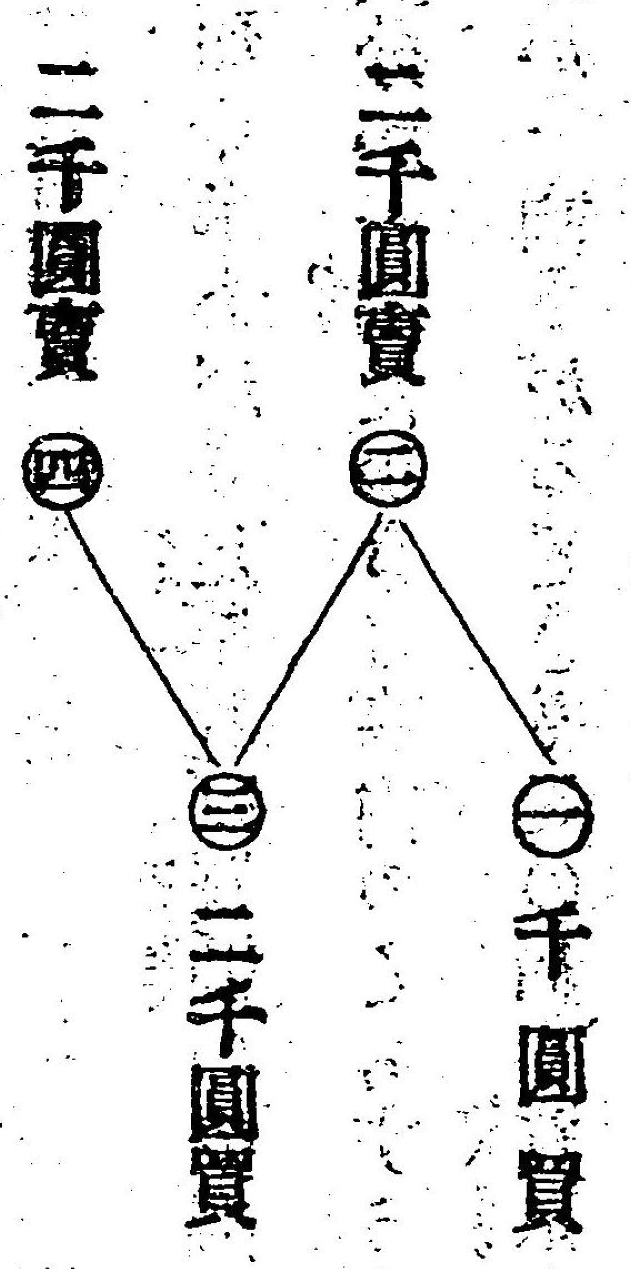


右圖の如く米あがり足ぶれば買楯の安樂とさだめ安き日買はじめ五分か一割たかき日商内のてらずうりはらひ徳をとりまた五分か一割さがるときもとの如く買取また高き日賣拂ふ此商内の仕方を買楯の安樂商内といふ賣楯安樂商内も同意なり

半扱商内より利徳おはし

利徳なれは常に一心やはらかな福徳圓萬の安樂商とし れ

轉變商内之圖



右圖の如く賣買するを轉變といふなり米の本体にはかゝはらずめさきの強弱に順ふ轉變商内の秘密なり　口傳曰　買楯轉變賣楯轉變のふた商内あり買楯轉變の商内の仕方はあがり足の米と見さだめたらば買をおほく賣をすくなく商内可し此仕方は

安き日千圓買五分か一割高き日千三百圓賣で三百圓賣になる又五分か一割安き日千三百圓買て元の如く千圓買跡になる是を買楯轉變といふあり賣楯轉變商内も右同意の仕方なり　口傳曰賣方損商内了簡ちがひと思ふとき早く見切轉變して強氣となり買ふべし一心たちまち安樂にして徳商内となるべし買方損商内も同意なり

鋸乃柏子はづもな轉變商内からちを踏となると身を切る

●萬歳運氣豐凶錄　（第七）

○暴風　十二箇年　校正者曰（和名抄）暴風史記云暴風雷雨漢抄云八夜知又乃和木乃加世

二百十日三平二乘半掖安樂轉變商内しかける年なり

甲子　丁卯　丁丑　辛巳　甲申　辛卯　甲午
丁酉　丁未　辛亥　甲寅　辛酉

右にあたるとしは中分の年なり然れども木氣鬱發の變氣ありて七八月の間に大風ふけば大凶年となる變氣なけれバ豊年なり

○洪水　五箇年

大風と同斷

己巳　己卯　己亥　己酉　壬戌

右にあたるとしは中分の年なり然れども土氣鬱發の變氣ありて七八月の間に大洪水田畑をやぶり損ずれば大凶年となる

○寒冷　三箇年

校正者曰此處に商内仕方の註なし考ふべし

乙丑　乙未　乙巳

右にあたるとしは寒冷はなはだしき年なり然れども中分の世の中なり六七月の間に金氣鬱發水氣仕復あれば豊年となる

○霖雨　二箇年

校正者曰此處商内仕方の註なし考ふべし

校正者曰（和名抄）霖和名奈加阿女今按又連雨又名ニ苦雨一説文云雨三日已往以レ雨林聲

癸未　癸丑

右にあたるとしは寒冷つよく万物さかねがたき大凶年なり然れども六七月の間に火氣鬱發の變氣あれば豊年となる

○極凶　六箇年

○校正者曰此處商内仕方の註なし考ふべし

丙寅　丙子　庚辰　壬午　丙申　丙午　庚戌

壬子

右にあたるとしの内壬午壬子は極凶のとしなり其餘は六七月の間に火氣鬱發の變氣あれば豐年となる

○豐作　廿八箇年

秋名月に三平二乗半扱安樂轉變商内しかけるとしなり

戊辰　庚午　辛未　壬申　癸酉　甲戌　乙亥

戊寅　乙酉　丙戌　丁亥　戊子　己丑　庚寅

癸巳　戊戌　庚子　辛丑　壬寅　癸卯　甲辰

戊申　乙卯　丙辰　丁巳　己未　庚申　癸亥

右にあたるとしは勝復鬱發の變氣もなくば大豐年なり然れども六七月に風もふかず炎熱はなはだしければ稲くさりらんかつくとしなり考ふべし

○中豐作　二箇年

豐作と同斷

戊午　壬辰　校正者曰以上一大周六十年也

右にあたるとしは豐年といへども中分れとしなり

●大潮小汐の考　（第八）

小しほと六六七八と九と十二十一二と三四五と志れ右の外皆大潮なり小汐の三日目大事の日なり大風ふきいだせばなり風の吹き出しはさししほに吹出し満汐にやむものなり十五日晦日のしほは六ッに満夜ひるともに九ッにひくさししほは日に〳〵に四分づゝれそく満ひくも四分づゝれろくひくなり

●風吹ぶかざるを考　（第九）

庚申より十一日め庚午より七日間大椎丁丑の日間日なり戊寅の日より七日の間小槌なり以上十五日の間は風吹ぬものなり故に

椎にいると海上に船を乗り出し申なり万一ふけは間日なりそれも百年のうちの一年と考へしるべし

●入梅三十日　（第十）

入梅は五月始の壬にいり六月壬ろあくとしるべし

●虹　（第十一）

朝にじは大雨ふりと兼てしれ夕日の虹は日和なりけり

●八専十二日壬子にいる癸亥にあて　（第十二）

八専のいる日に小雨ふりいだせばあくまで降と兼て知るべしおいた日にまた降いだせは十二日八専がへりふるといふなり

●立雲　（第十三）

立雲に赤みまじりは風としれ白き黒きは雨と知るべし

○一部極意九体歌（第十四）

○無極

高安の理は空理にて眼に見えずかげもかたちもなき物が体

○太極

理と非との中にてもれる理外の理米の高下のみなりとしれ

○陰　含陽

万人が万人ながら弱氣ならのばるべき理をふくむ米なり

○陽　含陰

千人が千人ながら強氣ならくだるべき理をふくむ米なり

○高安大法

大法が秋名月がやす峠五月下旬がたかたうげなり

○天性

高下とも五月下旬が天性の利のおるときと兼て知るべし

○商定式

高下とも五分一割に隨ひて二割三割はむかふ理としれ

○平乗定式

賣買は五分高下にて平むべし乗も同じく上分高下し

○賣買定式

買時は端午名月米ざかりはたは水無月文月としれ

●智仁勇三徳四十八首（第十五）

○智十首　校正者曰智は乗るなり順徳なり其意をてめたる歌なり

順商内と見さだめたらば万両も一手に乗が智の秘密なり
さだまり

高きをはせかずいそがずまつは仁むかふは勇理乗は智の徳

待は仁むかふは勇理のるは智半扱商内妙術としれ

天元商内三平もみなとひ藥乗ハたゞしき本商内と知

高下とも五分一割は乗がよし中墨をそぎて乗は馬鹿なり

高下とも長き足には乗がよし短か足にも乗ざるがよし

秋風やから腹あがりの旬來れは金のわき出る飛上りなり

水無月の米のきれめの高なぐれ青田時分に飛さがるなり

五月米人氣よわくて直は上る飛上り商内の旬としるべし

ねがる理も時いたらねばあがるまじ理を非にまげて米に随へ

仁十八首　校正者曰仁は心あり時節を待なりいそがぬなり

賣買をせかずいろがず待は仁とくの乗まで待も仁なり

只せくなせく商内に徳はなし五分安を買五分高をうれ

賣買をせけはせくほど損をするとんと休で手をかへて見よ

凶年の米のきれめの高なぐれ待てうるのが仁のとくなり

たゞせくな百俵あげて百俵はさげたためしがれはき事なり

買せきをせぬが强氣の秘密なりいつでも安き日をまつて買

賣せきをせぬが弱氣の秘密なりいつでも高き日を待て賣

三平も二平もいらぬ安直段せかずにまつがだいひみつなり
一平もいらぬ時節を待がよしたゞせくゆゑにからうをふむ
下る理も時いたらねは下るまじ買せきするは大たわけなり
上る理も時節がこねば上らぬぞせき買を玄て悔むまじきぞ
せく故に安きをうりてあたまから高をかふてからうをふむ
上るべき氣がつきぬれはおのづからくだる所が天性としれ
下るほどくだれは弱氣の氣もつきて上るところが天性としれ
風ふかぬ二百廿日の安直段定式としてまちうけてかへ
万八があきれはてたる直が出れはそれが高下の界なりけり
雨風の日をまちうけて米は賣日和をまちて米は買べし

順徳の智のみなもとい逆ふ勇そのみなもとはまつ仁にあり
○勇 二十首　救正者曰勇は膽なりすゝむなり平すなり
むかふ理は高きを賣て安をかふ米商内の大秘蜜なし
三割の高下にむかふ商内はかねのわきでるいづみとはしれ
○三割高下驚べからずむかふべし
二割から三割高下のある時はいつでも米にむかふ理としれ
○損商内不可恐ならすべし
損商内も平商内もみな釣のゑをは喰せておいて釣あぐるなり
三割の高下に徳は轉變し損はならずが秘蜜なりけり
万八が萬人ながら强氣ならたわけになりて米を賣べし

○米大崩大變不可驚可買

野も山も皆いちめんに弱氣なちあはうになりて米を買べし

分別も思案もいらぬかひ旬は人の捨たる米くづれなり

いつとても買落城の弱とふげてれいとてろを買がごくいぞ

いつとても賣落城の高とふげてはいとてろを賣がごくいぞ

豐年のくづるゝ米れ買がよし高きをまちて凶年はうれとてろをまちてうるべし

米やすく人氣の弱き日は買て人氣の強き高き日はうる

只てめは人氣の弱き日は買て人氣の強き日には賣べし

秋冬春二割高下にむかふべし度は三割にむかふ理としれ

千人が千人ながら弱き日はかへ萬人強き日にはうるべし

○三俵鞘不可恐可逆　校正者曰此書れしとはして廿俵を法とする故三俵は一割半

上る理と皆人ごとに極めたる大さやものにれたの種まけ

下る理と皆人ごとに極めたる大したざやにかひの種まけ

高下とも一割五分のれはざやはいつでも米にむかふ理としれ

○飛上不可逆　飛下可逆

飛さげはいつでも米にむかふべし飛あげならは米にしたがへ

飛あげの三日つゞきて高なくは米にむかふて飛さげをまて

（智仁勇三德の歌終）

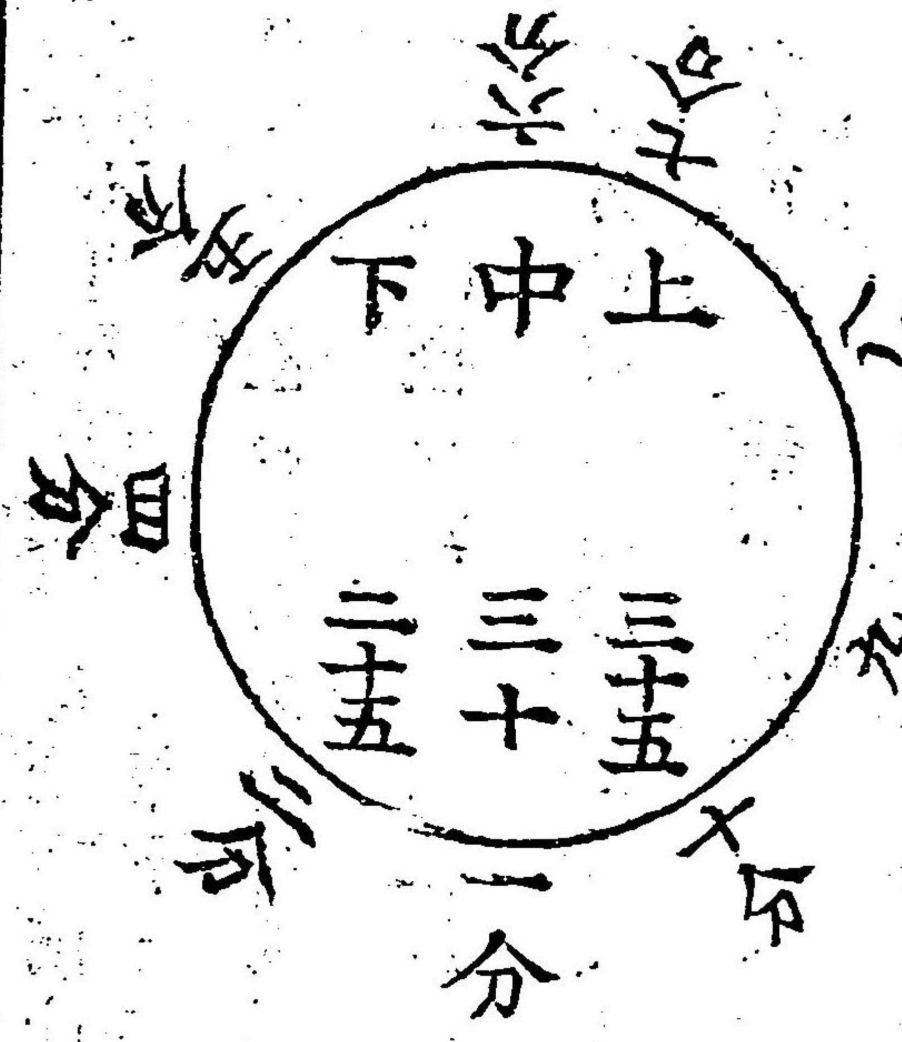
●田地米の數　（第十六）校正者曰順和名抄拾芥抄三才圖會等考へ合セし

總高米合せて二千八百八萬五千四百八十二石

田數合せて九十四萬七千八百一丁

●世(よ)の中(なか)三段年々秋作見積(みつもり)のこと（第十七）

世の中三段之圖



校正者曰一分三俵二分六俵三分九俵四分十二俵五分十五俵六分十八俵七分廿一俵八分廿四俵九分廿七俵十分三十俵是次の文のれもむきなり

●底直三拾五俵
一石四斗
四拾五匁七分

●中墨三拾俵
一石二斗
五拾三匁一分

●天井二拾五俵
一石
六拾三匁九分

○て、にあげたるハ十分延三五かけ正米三がけと見ゆ

校正者また曰（金泉秘傳古今高安日記）を見るに寛永元甲子年より元祿九丙子年まて慶長金にて十分四がけの割同十丁丑年より享保三戊戌年まで元金乾金にて十分三がけの割享保四己亥年より同六辛丑年まで十分四がけの割同七壬寅年より同廿乙卯年まで新金にて十分五がけの割元文元丙辰年より延享三丙寅まで文金にて十分三六がけの割なり金の　とくひるによりてかくの如して、なる三がけは正米の見積り三五がけは延米の見積りなるべし作割は三がけとのみ思ふべからを

一大周秋作分割之圖

小判相場中墨をとりて六拾四匁の割
一俵四斗廻し乃割あり

一分　十俵　二斗四舛
二分　六俵　二百六十六匁五分

凶年五段中年五段豐年五段都合三五の十五段なり是六十年一周の作割なり

凶年

三歩	九俵	三斗六舛	百七拾七匁六分
四分	十二俵	四斗八舛	百三十三匁二分
五分	十五俵	六斗	百六匁六分
六分	十八俵	七斗二舛	八十八匁八分
七分	廿一俵	八斗四舛	七十九匁一分
八歩	廿四俵	九斗六舛	六拾六匁六分
九分	廿七俵	一石八斗	五十九匁二分
十分	卅俵	一石二斗	五十三匁三分

○陽

●陰

七分廿一俵

太極八歩廿四俵中墨

九分廿七俵

高　安

今の世にはむかしの矩則にては高下のほどおひかたしといふはいかゞなり小判金の位とくるひによりて三がけ三五がけ四がけ四五がげの割かゝるべし四がけ四五がけの時は十分より下の分割はなきなりと心得べして、にお

豐年

十一分	卅三俵	一石三斗二升	四十八匁四分
十二分	卅六俵	一石四斗四舛	四十四匁四分
十三歩	卅九俵	一石五斗六舛	四十一匁
十四分	卅二俵	一石六斗八舛	三十八匁
十五分			

げたるハ三がけの分割也大法の十五段をヨツにわかち年々の高下を考へ矩則をたつべし尤二十四氣七十二候温暑冷寒と高下の時節と人氣と雨晴とをよくはかるべし

凶年の五段と豐年の五段と高下の割方いたくたがへり俵數のひらきをもつてあてとすべからず摺古木をもつて重箱をあらふべからずかんぼくの楊枝をもつて見えぬをみ〳〵をよくあらふべしいさゝかにても見えぬ處ありては利は得がたしと知るべし

嘉永四辛亥年四月廿四日牛田大人忌日考之

伊勢國阿濃津

生川猛之助安樂しるす

右三段の法をもてむかしより其年々の世の中の善惡（ぜんあく）を積る○

上分の年三十年もつゞくことあり○中分の年二十年もつゞくことあり○下分の年八九年もつゞくことあり○さて其年の出來を考ふること中分の世の中の時節その年の出來七分とつもらは七に三をかけて見れハ三七廿一俵八斗四舛 七十六匁一分 御手形割となる是を中墨の直段と見るべし○また法毎年新米賣買の初直段をもつて中墨と見て下り三割をいれて法とすべしたとへは直段廿俵ならは三割の下り六俵をいれて廿六俵を法とすべし是そのとしに變り申さぬはぶにて一厘も不違なりいつのとしにても十二分の下り三割十二分の上り三割と考ふべし此法はいつのとしにても新米初賣の日七分也と見るべし 校正者曰こゝにあ

げたる上分中分下分とあるは上の器とは別なり(上分)が十一分作也(中分)が九分上八分中七分下作也(下分)が六分上五分中四分下作也惑べからず

●強氣五ツの秘傳　(第十八)

○第一 一割半さげ百両○第二 二割さげ二百両○第三 二割半さげ四百両○第四 三割さげ八百両○第五 三割餘は千圓にても二千圓にても買べし 校正者曰此五段天元商内なり

○第一

先我心に其年の世の中十分と積り新米直段ことの外たかく値ま三割もさがるべしと思ふとしにても必々賣べからず一割半さげ買申候が大秘密なりいつのとしにても新米初直段を中墨

と見る家傳の秘法なりたとへは直段廿俵八斗七十九匁九歩ならは廿俵を中墨と見て中墨より一割半さげ廿三俵九斗四舛六十九匁五分にて百圓買廿四俵九斗六舛六十六匁一分にて百圓買廿五俵一石六十三匁九分にて二百圓買廿六俵一石四斗六十一匁五分にて四百圓買にて八百圓買持なり七十俵の損一割わがれは百六十俵の徳になるなり

○第二

中墨廿俵八斗七十九匁九分より二割さがり廿四俵九斗六舛六十六匁一分にて二百圓買廿五俵一石六十三匁九分にて二百圓廿六俵にて四百圓買合せて八百圓買持なり六拾俵の損一割わがれい百六十俵の徳

○第三

中墨廿俵八斗七十九匁九分より二割半さげ廿五俵一石六十三匁九分にて四百圓買廿六俵一石四升六十一匁五分まて四百圓買〆八百圓なり四十俵の損一割わがれは百六十俵の徳なり

○第四

中墨廿俵八斗七十九匁九分より三割さげ廿六俵一石四升六十一匁五分にて八百圓買一割わがれは百六十俵の徳なり

○第五

中墨廿俵八斗七十九匁九分より三割余もさがり廿七八俵ならは千圓にても二千圓にても買べし三六の運だめしと思ふべし此う

へのさげは千にひとつのことなり

●弱氣五ツの秘傳（第十九）

○第一　一割半あげ百圓○第二　二割あげ二百圓○第三　二割半あげ四百圓○第四　三割あげ八百圓○第五　三割余あげは千圓にて賣べし　校正者曰此五つは大元商内なり

○第一

中墨廿俵八斗　七十九匁九分より一割半あげ廿七俵六斗八升　九十四匁にて百圓賣十六俵六斗四升　九十九匁九分にて百圓賣十五俵六斗　百六匁六分にて二百圓賣十四俵五斗六升　百十四匁一分にて四百圓賣〆八百圓賣七十俵の損一割さがれは百六十俵の徳なり

○第二

中墨廿俵八斗　七十九匁九分より二割あげ十六俵六斗四升　九十九匁九分にて二百圓賣十五俵六斗　百六匁六分にて二百圓賣十四俵五斗六升　百十四匁一分にて四百圓締八百圓賣六十俵の損一割さがれは百六十俵の徳なり

○第三

中墨廿俵八斗　七十九匁九分より二割半あげ十五俵六斗　百六匁六分にて四百圓賣十四俵五斗六升　百十四匁一分にて四百圓賣て八百圓賣四十俵の損一割さがれは百六十俵の徳なり

○第四

中墨廿俵八七十九匁九匁斗より三割あげ十四俵九斗百十四匁一分六升にて

八百圓賣一割さがれば百六十俵徳なり

○第五

中墨廿俵八七十九匁九匁斗より三割余もあがり十二三俵ならば千

圓よにても一六の運だめしとれもふべし此うへのあげとても

千にひとつのことなり

●七福卽生秘密卷（第二十）

惣じて度端は三割さげ三割あげとは申せども買方には一割の

強み相見申候へは買方にすぐるゝことなしいつの年にても新

米初直段を中墨と見て買べし

○强氣逆損商內

逆損の商內中墨より二割までは一割ならし

二割餘は五分ならしなり

中墨廿俵八七十九匁九分斗にて百圓買天元廿二俵八斗七十二匁七分八升に

て百圓買一割さがり廿四俵九斗六十六匁一分六升商內まて二百圓買てゝまでに

て二割さがり廿五俵一六十三匁九分石にて四百圓買五分下り廿六俵斗一石四

がりなり 五分下り五分と五分にて四逆平〆千六百

六十一にて八百圓買一割都合にて三割なり 商內

匁五分

圓買持百八十俵の損一割あがれば三百二十俵の徳

○强氣一割上順德逆損商內順德の商內は

五分ならし

中墨廿俵八七十九匁九分斗にて百圓買天元十九俵七斗六升は

商內八十四匁一分

かまはず通しなり五分一割あがり十八俵八七斗十八匁一分二升にて賣次廿

俵の德一乗順七斗二舛一割半
德なり拾七俵九拾四匁にて新に百圓賣上りなり十六俵
六斗四舛二割十五俵六斗
九十九匁九分にて百圓賣上り百六匁六分にて二百圓賣
一割半五斗六舛三割上りなり〆八百
わかり十四俵百十四匁一分にて四百圓賣以上四逆平
圓賣七十俵の損一割さがれば百六十俵の德もし十九俵七斗六舛
八十四にさがりたらば十八俵よりなり百圓かふ廿二俵八斗八舛
匁一分五分のさがり
七十二にて百圓買天元商内の目だしより廿三俵九斗四舛
匁分一割さがりなり六十九匁五分
にて二百圓買同一割下り廿四俵九斗六舛
廿五俵一石六十六匁一分にて四百圓買同二割下り
六十三匁九分にて八百圓買同二割半下り十
買持五逆八俵より四割餘〆千六百圓
平百六十俵の損一割あがれば三百二十俵の德なり
○强氣一割半あげ順德逆損商內

中墨廿俵八斗にて百圓買拾九俵七斗六舛拾八俵
七十九匁九分八十四匁一分
七斗二升て丶までには通し十七俵六斗八舛にて賣次割一
八十八匁八分て一割なり九十四匁
半三拾俵の德なり則十七俵六斗八舛
九十四匁にてあらたに百圓賣一割半あ
がり二度目の天拾六俵にて百圓賣五分拾五俵六斗にて
元目だしなり上り百六匁六分
二百圓賣五分上り拾四俵にて四百圓賣五分上り都合にて
一割半上り天元平締八百圓
賣なり七拾俵の損一割さがれは百六拾俵の德なり
○强氣二割あげ順德逆損商內
中墨廿俵八斗にて百圓買拾九俵七斗六舛拾八俵
七十九匁九分八十四匁一分
七斗二舛拾七俵六斗八舛三五一割二割あげ拾六俵
八拾八匁八分九拾四匁は通し半なり
六斗四舛二割上りなり四拾俵の德なり則拾六俵
九拾九匁一分にて賣次順德

六斗四舛にて新に二百圓賣 二度目の天元目 それより段々 九拾九匁一分 たしにて轉變 つぐれは仕合なり追賣いたそべからす 二割上りを天井と見 積故追賣はせざる也た やし三割あげと申てとありもし拾五俵六斗 百六匁六分までもあがり二割半なりなは又二百圓賣猶ろのうへまでもきなば拾四俵五斗六舛 百拾四匁一分にて四百圓賣 三割上り十二分 のみてえなり 締八百圓賣なり六拾俵の損一割さがれは百六拾俵の徳なり

○度端一六の商内

中墨廿俵八斗七拾九匁九分より三割余もさがり申時か三割余もあがり候時は常に百圖位を本に立てあきなひをべしまた千圓まてを二千圓にても一六と思ひて爲かくべし三割余のさがりとても千に一ッあがりとても千にひとつのことなり

○立用商内

立用にかゝるあきなひはそろ／＼の米の高下をまへ／＼より能々相考へ爲かけ申てとなりとき／＼平物違ひ申てとなり立用はれはく商内をそる者の爲に大分よきてとなりろの道理は五万圓も拾万圓も買などあるときに賣次たく思へども賣いだすと脇より追たて六七分も一俵も追ふてとあり故に思ふやうに賣り出されそされは此立用といふてとは心安くいとよきてとなり

○隨色の商内　校正者曰此商内は本跡のあきなひにてなし

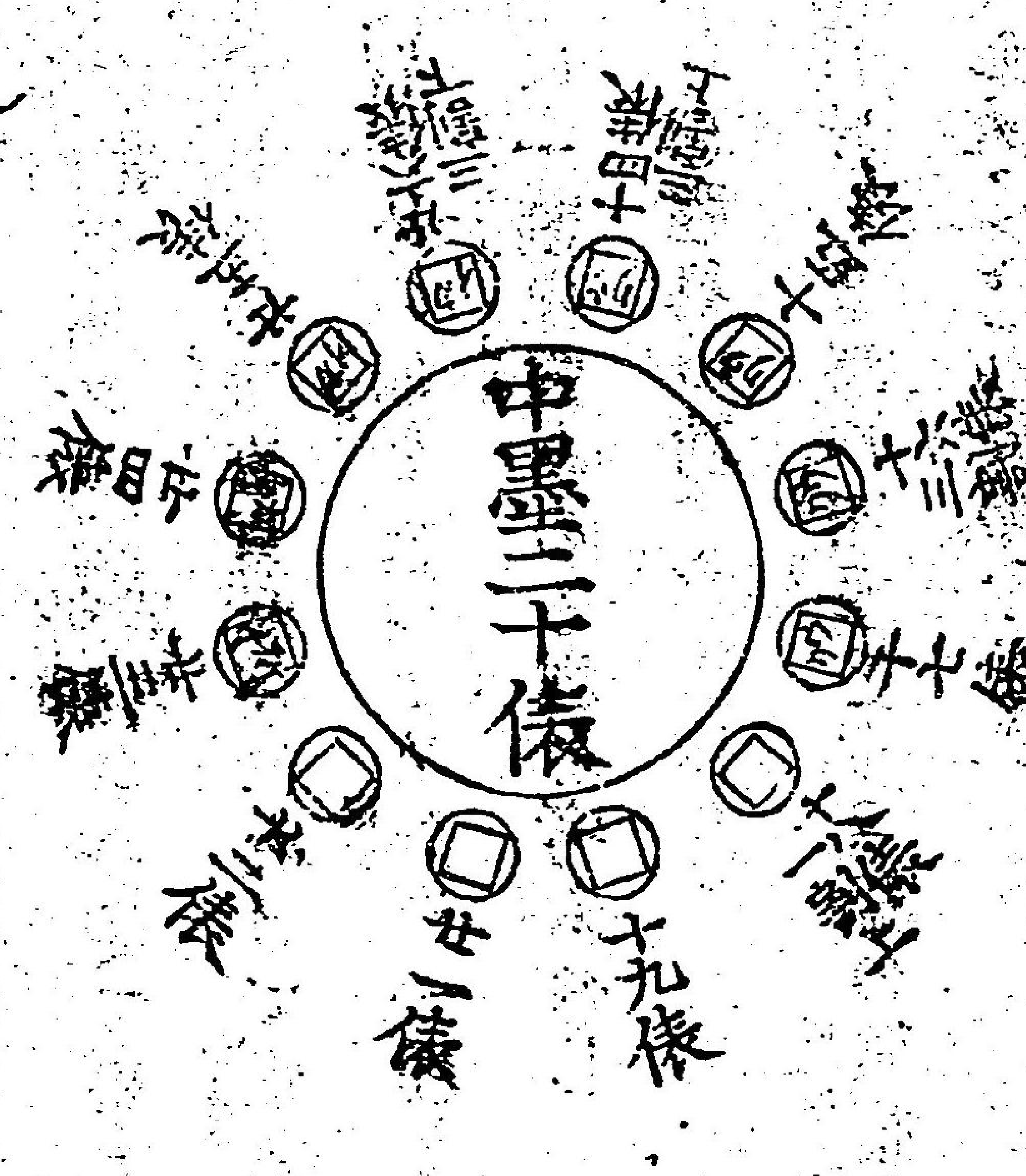
隨色の商内の法は異なるれもいれあるは格別のことさもなきときは高下あるまじとれもふ米俵に五分方七分方もあがるそのあがる處を賣りまた五分方七分方さがりたる處を買ふべし是を隨色といふなりしかし百圓か二百圓爲かくべし慥なるてともなきにればく乘をぐるは手前の强氣なるべし其外追買追賣なとも隨色乃商内なり此商内を俵かすくひといふなり隨色の文字にて見れは見立第一なるべし

●度端極意の巻　（第二拾一）

夫度端といふあきなひは欲をきりて放つを極意ともてしきよりればひになるを順とす米商内のもとなり放散せざれは千度に手度あたるべからず

●此圖は天明古寫本によるなり

三割上三割下之圖



夏		拾四俵	
		拾五俵	（一割半）
		拾六俵	
陽三	春	拾七俵	
		拾八俵	（一割半）
		拾九俵	
∴太極		廿俵	（天元ノ一）
陰三	秋	廿一俵	
		廿二俵	（一割半）
		廿三俵	
	冬	廿四俵	
		廿五俵	（一割半）
		廿六俵	

●下の三割高下の割れ校正者補

此圖を度端の極意として中央方圓を形象天地めぐり拾方には
四方東西南北と四ッの隅乾坤巽艮を合せて表す拾方買方には旱魃風雨
天災買じめの理春夏秋冬にれきて強氣ある人の理れはし賣方
には買じめの崩をまつより外に一理もなし故に此圖をあらは
す買に一割の強みある理を考ふべし

○強氣の功

風雨はげしき時ハ四季ともに船の破損荏土大阪ともに船間あ
るべし人てゝろは第一なり
風烈き時は四季ともに大事と心得べし
三四月より八九月までの内風雨烈き時は洪水田畑破損のてと

あり
四五月の旱魃うゑつけなし
四五月頃の長雨麥にくさり入塩さりいづれは麥なし
四五月の大風ハ麥にあたるべし
六七月の大風は惣じて雜穀にあたるなり
六七月の旱魃は惣じて畑物にあたる
八九月の風は稻にあたる秋の季にいりてはすてしも油斷なら
す
八九月の長雨稻くさり五六月の長雨ふり冷氣年は秋の實入な
しかるべきなり

世の中積りのこと弱氣に八分三がけ二拾四俵とつもらは強氣にハ六分三がけ拾八俵とつもる是たがひに勝負なしの中畢二拾四俵の事なりなるべし右強氣の功かくの如し　さて植つけより旱魃風雨の天災もなく拾分の世の中といふは百年に三箇年ならではあるべからず我國豐年なりとても東西南北の國々吹わたる國もあるべし我一箇國の豐年を見て日本國中よかるべしとかならず〳〵思ふべからず總じて下直なる國よりさきへあがる物なり考ふべし買方はよきならし物などを買あげて米をあきる理もありたゞうり方又は天性の理をいたそより外に一理もなし買方に一割の強みあること能々考ふべし

○弱氣の功

大高直段の年は上よりも酒など御法度あるいは運上など事仰出のあるべし其外金子御取上けまた町中御勘略など被仰出のあるべし是また考ふべし

或は吹もせぬ風を吹たりといひそてしの破損も大分のやうにいつはり買〆などいたせし年も日本は神國にて正直をもとゝせる國故天性のさかりもあるべし強氣の風雨のいひたて尤なれども船には船人あり天氣を見て出し候へは破損もなく船間あれは入船あり風はげしき時は火災をおそれて藏詰にす

○

毎年初直段を中墨と見る是第一の秘傳なりまた中墨を買申候第二なり正金百圓にて百圓の商内を初發にたつる第三の秘傳なり

陰米陽米といふてとありあがる米を陽くだる米を陰といふ其理は陰は陽へくだる陽はすゝみのぼるなり

大阪長休日の後相立候相場前々とまり相場より高き時は景氣根強き米と知るべし安き時は不景氣と知るべし長休日の内人々工夫のうへしたる商内なれば兎角相場にしたがふべし

東國西國ともに高く當地も景氣よき方三ツ揃候てれはあげいたし候へは極めて賣り申すべし安き方も同斷

新米相場は他處の註文れはき方についてよし

校正三猿金泉和

今の世にうつしてつたはれる本どもを見るに歌のをちてるあり文字のあやまつたるも見えてまつたきは無さるあやまりれはきを法にたて、賣買にかくる時はたとへにいふ一歩千里のたがひとなりたずけとはならずしてかへりてれはきなるあやまちとなるべしれのれ四五箇年あなたより人々の寫してもたる、本どもあまたかり受ひきくらへ考へくらべてよしとれもはる、方をあげて此書とはなしぬされとかく申れのれ此道に入そめてよりあまたのとしをつまされは猶牛田大人のもとゑらまれたるにたがひたるもあらむかとれそる、になむ具眼の人たもちしさるものびこなひもあらはた、しき方にひき直しあらためてよかし

嘉永四年五月三日　鳴川安樂

明治十七年中大阪堂島米相場景況表

茲に當地本年中の商況の概要を報せんに先づ歳首一月上旬にありては客秋の豐穰と例の不影氣の餘響を以て兎角に不活潑の景状なりしが當時現米上物は不絶輸出口の需要ありまた各地に於て備荒貯畜の買入ありし影響を以て其中旬よりして相場漸く上向の運に向ひ延て二月中旬に至るまで日を逐て昇進せり爾來三月四月の交にありては市況極めて平穩にして久しく保合ひの姿なりしが四月末頃より現米の取引稍々繁忙を催し五月となりては其商況愈活潑にして月末に至りて相場最も騰貴せり是れ蓋し客年の秋穫は全國を通觀すれば固より稀有

の豐穰なるも當府近傍にありては非常の旱損を被り收穫極めて不登なりしゆへ勢ひ意に食料を府下に仰がざるを得ざるに至り其等の需要頗る急を要したりと當時氣候不順にて屢々暴風强雨等の患ありて大に麥作の結果を掛念せしに由れり然るに六月に入りては前段の高價を見て各地方より頗る多量の輸入米あり加ふるに各地麥作の如きも收穫前連日の天氣續きにて殆んど意表の豐收を見るに至り從て彼の旱損地方の需用も次第に減少せしを以て爾來商況頓に轉換して日に低落の途に趣き七月となりては其勢ひ益々急激にして殆んど底止せる所を知らざるが如き有樣なりしが其中旬に際し霖雨連日意に非常の洪水となり稻莖の被害太だ少なからざるを以て一時意表の奔騰を來たせしも幾ならずして復た下向の商況となり逐次低落八月下旬に至りて意に其最低點に達せり其後偶々淸佛開戰の報を得て稍や氣直りの含ある折柄其廿五日の暴風を以て太く稻作を害せしより人氣愈々立直り其月末に際し頗る活潑の商勢を顯はせしも當時客年の豐作尻を以て各地貯藏米の多澤なると且つ近年冬期に至りて米價頻りに低落せるの例あるを以て未だ確乎たる思惑人の顯はれず九月に入りては市況兎角に不活潑なりしが其中旬に至り累ねて非常の暴風雨あり加ふるに氣候冷凉甚だ不順なるを以て愈々秋收の結果を案じ

人氣全く強氣に傾き相場次第に昇進せり然るに其後十月に入りては各地に於て備荒貯畜の賣拂等ありて西國及瀬戸内地方より存外多量乃輸入米あり加ふるに難波倉拂米等の影響を以て其中旬に至り一時甚だ不味の姿ありしも當時追々稲毛の實收に際し其收穫の見込よりも遙に劣れるを以て定期米の如きは各地方より續々買注文の顯はれ從て其下旬頃より相場引續き昇進し十一月となりては商勢殊に活潑にして其月末に至るまで殆んど騰貴の一方に傾向せり然るに本年七八月の交より府下の金利非常の低落を示せしを共同運輸會社の創立に由りて運輸の便の増進せしを以て大いに貨物の幅湊を來たし十二月

上旬となりては市中の倉庫悉く梗塞し金利亦踵つで奔騰せり是故に一時米價の騰貴を制したる如き姿ありしが其中旬に至り圖らずも朝鮮事變の急報を達するや人氣忽地激昂し加ふるに彼の作劣りの影響を以て時既に歳末納税期に接するも新米の出廻り極めて薄く其景況全く例年に反せしより是迄該期を目的買和へ居たる酒造家等の需要一時に幅湊せしを以て相場頻りに奔騰し遂に本年中の最高を以て其の取引を終るに至れり

右は大阪府勸業月報に抄録なれは米商に關する者よく〳〵熟考して見るべし

明治廿四年二月廿一日印刷
同年二月廿二日出版 (定價二十五錢)

編輯者 大阪府平民 東區瓦町二丁目廿五番屋敷 伴源平

發行者 同府平民 東區本町四丁目廿一番屋敷 赤志忠七

印刷者 大阪府西區堀江三丁目 中原白藏

大賣捌所 大阪市大江橋北詰西入 小林政太郎

花淵松壽著

●八木秘傳書 西洋綴小形本美製全一冊

浪華 八木書屋藏

定價四十五錢新刻廣めの爲別格大安賣千部限り(正價十五錢)郵税二錢

●卷中略目

●太極立商内仕法立備の事●太極六十年の圖を以て年々米穀の豐凶を察し相場高下の大略を定る法立●太極十二ヶ月の圖を以て月々賣買の臨氣應變を知る法立●太極四象日の圖を以て其年月と照し合せ米直段高下の微細を察し天井底直を知る法立●二十八宿七曜日の圖を以て日の賣廻し買越しを彼の太極年月日に照し合せ猶微細の高下を知る法立●天井底直となる所の直合の節々を定る事●正米夏冬兩度の立替毎に生直段を定め夫々天井底直を割出す算立●帳合初相場毎の生直段を定め夫より天井底直を割出す算立●帳合相場當る〆貫直段を積り出す算立●節季毎切相場直立の算法●豐凶作に因て登米の步割を考へ越年米有高の多少を積り直段の位を定る算立●六方金神の圖說を著して國々の豐凶作を知得する事●風雨大しけの場所廣狹を知る辨●正月より十二月まで月々の晴雨および毎月節々の日の天變有無に因て翌年の豐凶作を察すべき微細の考を知る辨●六十

年の圖を記し四季月々の晴曇風雨雪霧雷震にて其吉凶を考る

秘傳目錄干

此書ハ舊幕府時代には隨分八カマ敷本也其故は米穀の豐凶直段の高下年月日の吉凶晴雨雷震其他天地間の事は目前に分るゝ此本を閲て相場すれば賣買ともに其目的通り行かんと言事なき故に甚怪敷たる人も有故に通常書林には賣物に頓と無之品にて到て些少本也然るに先般三猿金泉祿並に八木三卷書其他米商に關する書を賣出し候處御蔭様にて多いに諸君の御愛顧を蒙り日増しに部數相捌其每度に右八木秘傳書は無之哉と御尋に預り居候得共未其原本を不得甚遺感に存し八方素探仕候處漸に此頃に至り其原本を得たれば直様其筋へ出版御届濟の上明瞭成活板西洋綴にして發賣仕候得は相場に關する諸君は勿論農家植附の時候を考又は何商にても米穀の豐凶によりて商法の進縮有る物なれば農商工に關する人は必一讀あれば其商法に就ての利益は日本の富士山亞細亞洲イラレストヒマラヤ山よりも大キナ山程の金儲の出來古今稀成商法秘密の大珍書也

此廣告書御持參の御方へは目錄の直段より猶一層勉強致し別段正價より一割宛直引仕候間何卒御入用之節は此廣告御持參可被下候其他何書に不限引札持參の御方へは別格直段相働き差上申候間多少に不限御用向仰被下度此段奉願上候也

八木三卷書

繙羅

八木虎の巻
八木豹の巻
八木龍の巻

小形本全一冊定價四十錢千部限り前金別格十二錢郵稅二錢七月限り定價に引直す

別賣虎の卷 定價十二錢 別格前金四錢
同 豹の卷 定價十三錢 別格前金四錢
同 龍の卷 定價十五錢 別格前金四錢

右の書は米商相塲立合賣買心得の大秘密書なる事は諸君乃知り玉ふ故こゝて筆を費さず然るに元木板は磨滅して讀者の遺憾不少依て一般活字板の明瞭なるに摺立便利懷中本製したれバ續々御愛求あらん事を奉願上候

年中運氣指南

小本全壹冊定價廿五錢 正價十五錢郵稅四錢

○卷中畧目○年の運氣繰用の事○年ヌ異名ある事○年の上中下吉凶の事○五運各主氣象の事○客氣立様の事並主客の圖○運氣の一年の事○年中の運氣の大概を知る事○主客六氣各主氣象の事○主客の六氣上下の事○主の六氣の事○年の十二支を以年中の氣を見る事並に年中の五穀善惡の事附り每年の雨風を知る事○十干にして年の氣を見る事○年中の雨風善惡を占事○正月朔

日の雨風を以年中の善悪を占事○旱魃に雨を祈法の事○酉の日に風有の事○二百十日二百廿日放生會に風有の事○八十八夜名殘の霜の事○半夏生の事並に此日毒降俗説の事○入梅の事○二季の彼岸の事○十方暮の事附天一天上○八專の事並に八專に灸せざるの事付癸亥の灸の事○土用の事並に土用間日の事附り土用よ灸せざるの事○塩の滿干の事並に知死期の事附毎日の塩指引時刻の事○人の生死知死期にはづれる者有の事○二十四氣七十二候の事○冬至の事並亥の子の事○追加○目錄終

和漢年中 **運氣指南後編** 小形全壹冊定價廿五錢 正價十五錢郵稅四錢

右は前篇に漏たる年中時候運氣の事猶明細に書記したる書也

八木秘密箱○米商必携

商家秘錄 小本全一冊定價廿五錢 正價十八錢郵稅四錢

卷中略目○商法卅余條○諸商賣說○米商人覺悟の心得○商司愼次第○相場高下論○商功者の傳○長思入立樣○思入救仕樣○故商の異見○難平商の異見○相場初日前思入立事○相場初寄日高下規矩○相場初寄直段位見樣○通相場直數の原由○一日の高下見積り樣同大引にて翌日の高下見樣○思わくに無の商仕掛間敷事○誤早く可致事○米捌の論○米直段高下の數を知る事○天井底考の樣○天井直段知る傳○底直段知る傳○通相場見樣○長通相場の事○汐の差引の事○出米高下○賣米出米有米越年米並に直段の事○北國米上り高積りの事○不成就日の事○不時相場の事○風心得傳○雨心得傳○虫心得傳○洪水旱魃の事米麥大豆綿植時の事○米相場世諺の事○毎月相場高下を知る○四ヶ條の秘事○二十八宿の占○米市場年中行事

安部晴明 **秘傳錢占袖鏡** 小本全一冊 定價十五錢 正價八錢 郵稅二錢

此本は銅錢二文を以て何事によらず吉凶を占ひ又日々賣買の事を判斷をるは其的中神通の如し實よ安部晴明一代の明瞭の眞書なり

增補諸色 **相場高下傳** 小本全一冊 正價拾二錢 定價廿五錢 郵稅四錢

米商相場の心得より賣買ともに臨氣應變を考其他年中場所の立合一歩も不利を不取妙傳を書のせたる相場第一の妙眞書なり

眞勢先生口傳 **米相庭高下論** 小本全一冊定價廿五錢 正價拾二錢郵稅四錢

此書は眞勢先生一生中の考にて窮理に依て賣買の高下をなすてとを判斷せられたる書なれば相場高下の占ひは此本に依て見る時は百的百中うたがふべからざるの珍書なり

○元祖聖徳皇太子　○中祖水野南北居士著

南北相法

前後　全十冊　定價一圓二十五錢　正價九十五錢　郵稅十四錢

此書は先生一代實際經驗百中の口傳にして高論活眼神の如く相家に不暇一讀あれば其益莫大なることを證す

人民毎日の寶

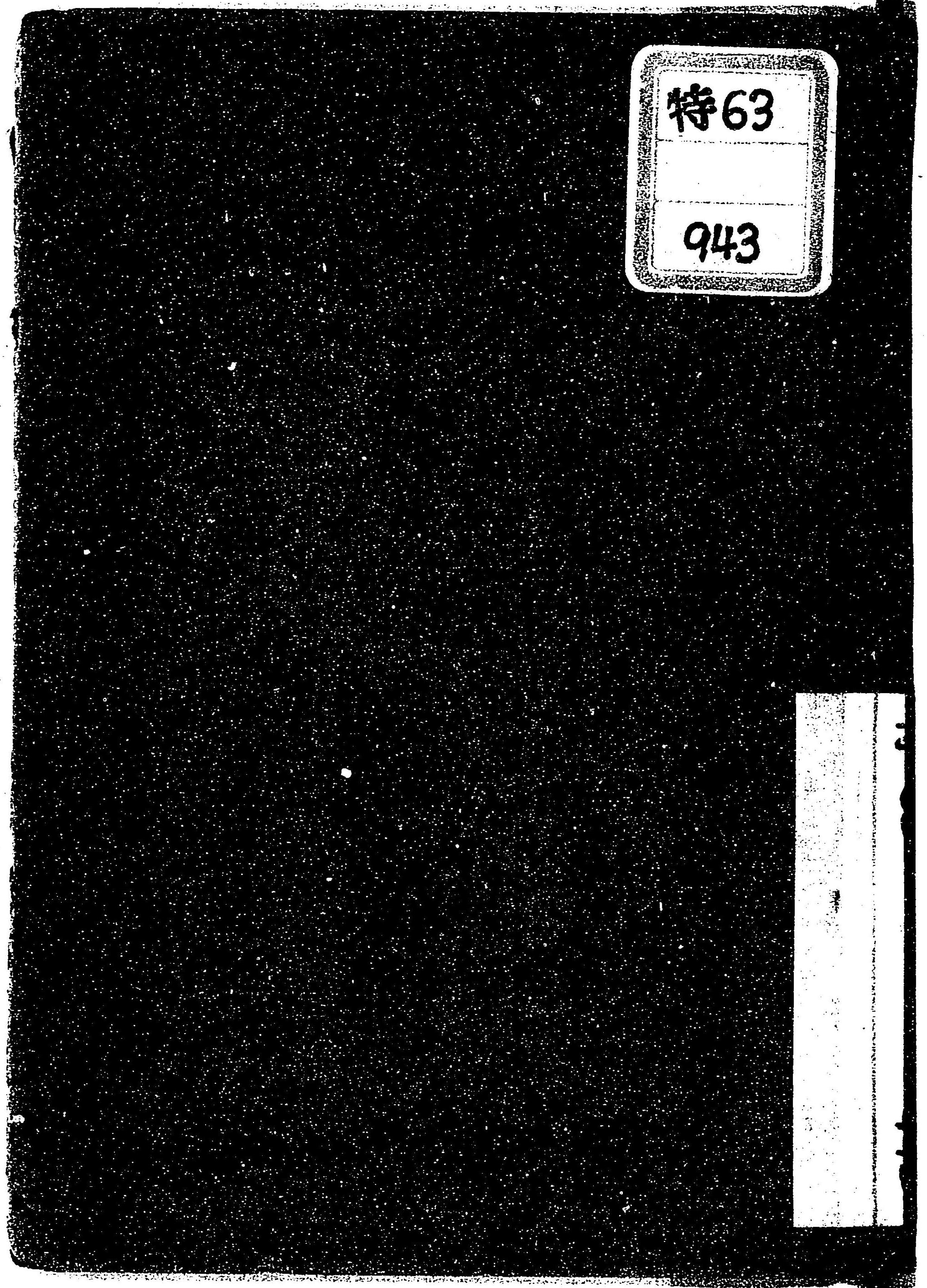
改正明治年代記

○銅版全一冊定價六錢○實價二錢○郵稅二錢

右は天皇代々○萬年歷○年齡早繰○歷の上中下段のわけ○四季年德の講釋○風雨天文○七曜九星本命方位其他日々萬民の心得を不洩集たる重法な本也

發兌書林　大阪本町四丁目卅一番屋敷

赤志忠七



044050－000－7

特63－943

八木猿金泉秘録（校正）

牛田　権三郎／著

M24

BDM－0174